

# よこしば

## 於幾地先の栗山川沿いで 『舟付場記念碑』の除幕式



このほど「古代舟の舟着場」と言い伝わる於幾地区の栗山川沿いに、『舟付場記念碑』が建立され、3月3日、その除幕式が行われました。この記念碑は、その昔「光孝天皇に關係する姫君を乗せた舟がこの地に漂着した」と言い伝わる『栗嶋宮』伝説にちなみ、同地区にお住まいの『栗嶋宮』守役小関喜保さんなど有志の方々が建立したもので、白みかげ石で高さ約1・2メートル。“舟付の由来”が刻まれています。『栗嶋宮』の祭神は、和歌山の淡島明神の分霊で「少彦名神」。江戸中期から、毎年3月3日には「針供養」が行なわれるなど女人信仰が広まっており、このようなことから、除幕式には、地区役員の奥さん方も出席して除幕が行われました。

今後、昔から言い伝わるこのような伝説を大切に、後世にまで伝えていってほしいと思います。



於幾地先に建立された『舟付場記念碑』

## 「大きくなって、帰って来いよ！」

サケの帰る川“栗山川”



子どもたちにも、栗山川の環境問題を考え、毎年行われているサケの放流

「大きくなって、帰って来いよ！」と声を掛けながらサケの稚魚を放す子どもたち。

今年も、サケの稚魚の放流が3月13日、栗山川横芝堰で行われ、横芝小・大総小の5年生と、東陽小（光町）の3年生に見送られ、約6万尾が旅立っていきました。

水産資源の確保と栗山川の環境美化運動の一環として「きれいな川にしか棲めない」と言われているサケの稚魚を放流し“サケの回帰できる川”にしようと、昭和51年からこの『サケの稚魚の放流』が行われています。

子どもたちの手から放されたサケの稚魚が、3、4年後“母なる川栗山川”に元気な姿を見せてくれる時、きれいな川でありたいですね。

## “卒業・卒園式”に彩りを

### 青少年相談員が春の花を植栽

町内の各小中学校の卒業式、保育所・幼稚園の卒園式を前にした3月5日の日曜日、町青少年相談員連絡協議会（勝又洋一会長）のみなさんが、式に彩りを添えようと春の花“パンジー”と“ジュリアン”を植栽しました。文化会館駐車場でプランタ

に植え付けられた花はトラツクに積み込まれ、各学校・保育所へ。これらの花は「卒業・卒園式」はもちろん、4月の「入学・入園式」頃まできれいに咲いているそうので、緊張した新入生の心をきつとごますことでしょう。



青少年相談員 子どもたちが心なごめよう